



German Literature

ドイツ文学専修

ドイツ、スイス、オーストリアだけでなく中東欧に広がるドイツ語文化全体を対象とし、文学にとどまらず、思想・芸術から日常的な生活文化までを扱う専修です。

18世紀に始まり、文豪ゲーテやグリム兄弟をへて、トーマス・マンやブレヒトにいたるドイツ語文学の伝統は、カフカやフロイトなどユダヤ系の人びとの活躍によって、いっそう豊かで複雑な流れをかたちづくってきました。こうした流れは、広い意味での社会的現象の一つですから、各時代や地域の政治や経済、宗教や慣習への目配りなしに議論することはできません。伝説やメルヒェンといった口承文化、さらには衣食住など日常生活や印刷物、画像、音声などメディア相互の連関も、欠かすことのできない着眼点です。

授業では、まずドイツ語能力をアップし、そのうえで文献を深く読み抜くねばり強い思考力を身に付けます。ネイティブ教員の授業では、実践的なドイツ語力も鍛えられます。研究室メンバーが全員参加し、ディスカッションやプレゼンテーションを重ねて表現力を徹底的に磨く演習も開設。小規模な専修ならではの、ともに学ぶ雰囲気を大事にしています。

<http://germanistik533.wixsite.com/ougermanistik>

教員

三谷研爾 教授	みたに・けんじ
吉田耕太郎 准教授	よしだ・こうたろう
Johannes Waßmer 特任講師（常勤）	ヨハネス・ヴァスマー



何を学んでいるの？

ドイツ文学入門

ドイツ文学を、文化史という切り口から紹介する講義。単なる作家と作品紹介にとどまらず、ドイツ文学の背景にある歴史や文化を厚みをもって紹介する講義です。ドイツ文学って何？ と少しでも興味を持ったなら、まず聴講してほしい講義です。

ドイツ語文献読解の基礎

初級文法を習得した学生が、ドイツ語で書かれた文学作品や研究論文をよむことができるようになるための授業です。新聞、雑誌、各種パンフレットなどなど、多種多様なドイツ語を精読する授業です。

ドイツ語会話

ネイティブ教員によるドイツ語会話の授業です。日常会話はもちろんのこと、研究テーマについての発表やディスカッションなどがおこなえるようになるための実践的な語学能力を身に付けるための授業です。

どんな授業があるの？

【講義題目】

Travel Concepts in the History of German Literatur
アシュケナージ・ユダヤ文化論
ハブスブルクの歴史と文化—「翻訳」という文化

【演習題目】

Kommunikative und Kulturelle Kompetenz
ムージルの幻想小説『黒つぐみ』を読む

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

日本における『ハイジ』—その受容史をめぐる比較文学的研究

野上弥生子（1920）に始まる『ハイジ』翻訳の歴史を、明治以降の児童文学の展開に即してたどった意欲作。野上訳、戦後すぐの竹山道雄訳（1953）、最新の上田真而子訳（2003）をドイツ語原文と丹念に比較して、それぞれの文体と各時代の読者像とを関連づけ、最後はアニメ版『ハイジ』の評価にまでおよぶ分析がスリリングです。（選：三谷研爾 教授）

【卒業論文題目】

- 「見る」ことにおける時間とそのはたらき
—フーゴ・フォン・ホフマンスタール『帰国者の手紙』のゴッホ体験を中心として
- 「グリムの森」にみる希望
—ギュンター・グラス『女ねずみ』におけるテクノロジー批判
シラーによる「悪の解剖」
—『失われし名誉ゆえの犯罪者』をめぐって



研究テーマも自由に選べ、他専修の人も参加する刺激のある授業。

学生
インタビュー

ドイツ文学専修の授業に出席している学生のみなさんに集まってもらいました。独文の研究室の印象について教えてください。

独文の授業は本当に楽しいですよ。授業はアットホーム、授業以外もアットホーム。小規模の専修ならではの利点だと思います。授業中も自然と意見が出てくるような雰囲気がありますね。



ほかには？

独文には文学を研究している人ばかりいると思っていましたが、文学にこだわっている人はとても少なく、ドイツやヨーロッパの文化や歴史をはじめ、好きなテーマを研究している人が多いことに驚きました。それから研究室主催のイベントやパーティーも多く、自然と居場所ができるのがよいところかな。



そうですね。授業をする教室でパーティーをすることがありますよね。ほかにはどうですか？

もっと情報発信してもよいと思う。留学している人のレポートやきれいな写真を公開する。

いい案ですね！ 留学する人が多いのも独文の特徴ですね。

独文の授業には、他学部の学生が参加することもあります。今日は経済学部から2名参加してくれています。経済学部と文学部の違いはありますか？

カルチャーが違いすぎ（笑）。

そうですか。文学部の雰囲気はどうですか？

好きです（一同、笑）。決まったメンバーが顔をあわせる居場所があるのは魅力です。

授業の雰囲気はどうですか？

授業中に発言しやすいと思います。授業後に質問するのもありますが、独文の授業では、疑問点や理解できない点を授業の中で発言して、参加者みんなでも共有する良いサイクルができていくような気がします。

ほとんどの学生は、阪大に入学してからドイツ語を学び始めるので、ドイツ語を読解の授業では、分からない点を残すことなく、授業の中ですべて解決できると思う。

文学部紹介を読んでいる高校生たちにメッセージはありますか？

1年以上の長期の留学、海外とつながる機会が多いと思います。ドイツからの留学生も多い。

求めれば求めただけのことをしっかり返してくれる環境だと思う。分からないことがあれば、しっかり教えてもらえるし、留学だってそう。おどろくほどたくさんの選択肢があることを教えてもら



える。

そうそう、例えば英会話のスキルを上達させたいと思って調べてみたら、1対1のタンデムやサロン形式の自由な英会話の機会とか、本当にたくさんの可能性があることに気がついた。

自分で調べてみよう、自分で探してみようという、自分のやるき次第で答えがかえてくるということですね。

それからオープンキャンパスの研究室訪問の機会はぜひ活用してほしい、それぞれの専修の雰囲気を肌で感じてほしいです。

（一同、同意）

今日はありがとうございました。

【インタビュー協力】

ドイツ文学専修、日本学専修
美学・文芸学専修、経済学部
に所属する
学生のみなさん

